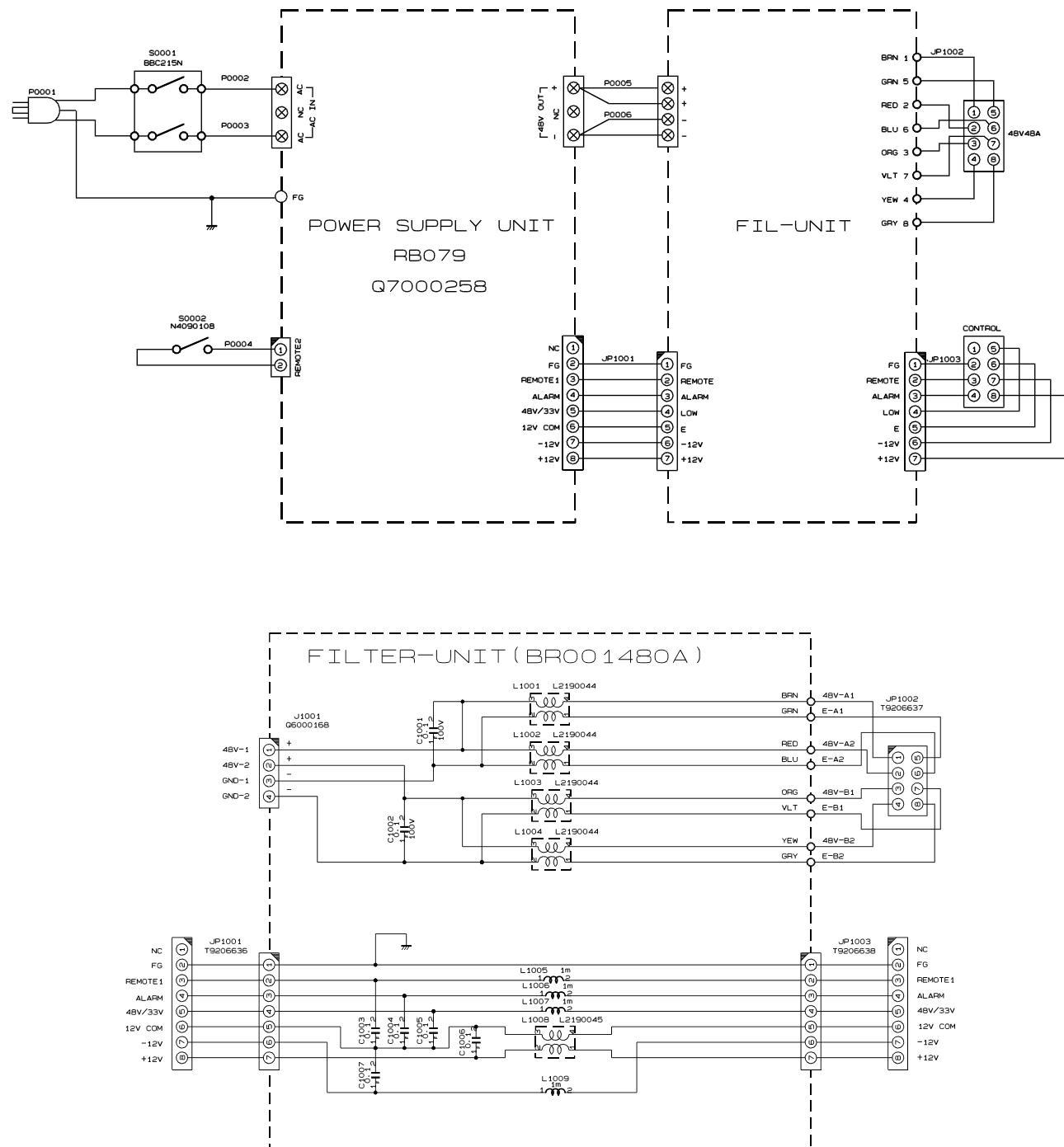


回路図

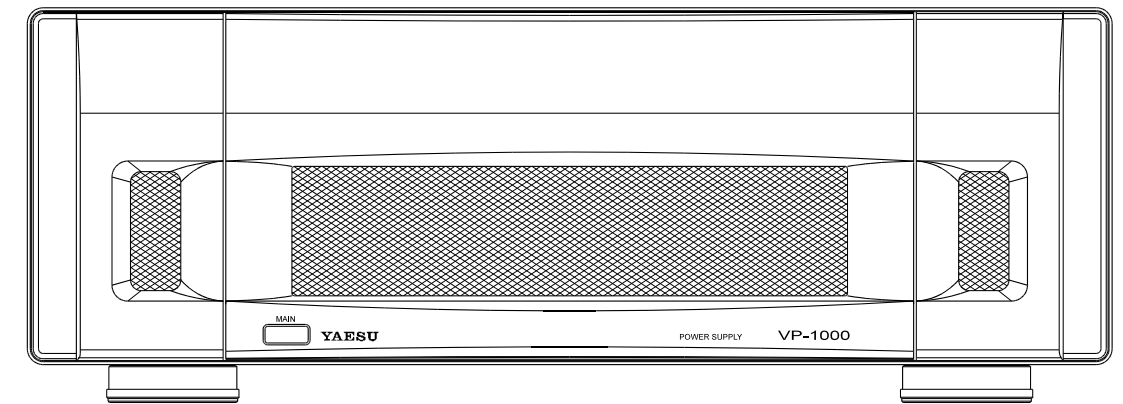


YAESU VP-1000

外部交流用電源

お買い上げ頂きました VP-1000 は、当社の 1000W リニアアンプ VL-1000 専用の外部交流用電源装置です。VL-1000 が 1000W 送信を行うために必要な電力“48V, 48A”を安定して供給する実力を持っていますので、安心して 1000W 送信をお楽しみ頂けます。

また、過電流保護・過電圧保護・加熱保護等、各種の安全保護装置を内蔵しておりますので、万が一電源回路やリニアアンプに異常が発生した場合でも、被害を最小限に抑えることができます。



- HF 帯で 1000W 送信を行うためには、必ず交流 200V の電源に接続してください。
- 交流 100V の電源に接続する場合には、VL-1000 の出力を LOW POWER (500W) に設定してください。

交流 200V の電源に接続する場合には、電源コンセントの形状にあわせて電源プラグを交換してください (電源ケーブルの白色と黒色の線材を 200V に、緑 / 黄色の線材を GND に接続してください)。また、交流 200V の電源を新たに敷設する場合には、お近くの電気工事店に工事をご依頼ください。なお、ご不明な点がございましたら、お買い上げ頂きました販売店または、当社東京サービスセンター (電話 : 03-6423-8711) にご相談ください。

定格

出力電圧 : +48V DC, +12V DC, -12V DC
 出力電流 : +48V: 最大 48 A
 +12V: 最大 2.8 A
 -12V: 最大 0.1 A
 定格入力電流 : 交流 100 V または 200V, 50/60 Hz
 消費電流 : 約 14 A (交流 200 V 入力, VL-1000 1kW 出力時)
 約 15 A (交流 100 V 入力, VL-1000 500W 出力時)
 動作温度範囲 : -10 °C ~ +50 °C
 外形寸法 : 410 x 135 x 369 mm
 (幅 x 高さ x 奥行 : 突起物を含まず)
 重量 : 約 14.6 kg

付属品

DC Power Cable: T9021199A (2 meters) 1
 Control Cable: T9101483 (2 meters) 1

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

© 2013 八重洲無線株式会社
 無断転載・複写を禁ず



⚠️ ご注意

本機を安全にお使いいただくために、下記に示す注意事項を良くお読みになり、本機を正しい操作方法でお使いください。

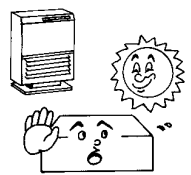
安全上のご注意

- 異常？と感じたときには、煙が出ている、変な臭いがする・・・などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源スイッチを切るとともに電源プラグをコンセントから外し、お買い上げ頂きました販売店または、当社東京サービスセンターに修理をご依頼ください。
- 本機の内部に触れることは、感電等の事故や故障の原因になりますので、絶対に行わないでください。内部の点検・調整は、お買い上げ頂きました販売店または、当社東京サービスセンターにご依頼ください。
- 水がこぼれたときには、本機のそばに花瓶、化粧品、薬品、飲料水などの、水の入った容器を置かないでください。万一、内部に水が入った場合には、すぐに電源スイッチを切るとともに電源プラグをコンセントから外し、お買い上げ頂きました販売店または、当社東京サービスセンターにご相談ください。
- 必ずアースを接続してください。電源ケーブルの先端に出ている緑/黄色の線材がアース線ですので、十分に太い銅線を使用してできるだけ最短距離で大地に接地するか、あるいは電源コンセントのアース端子(アース付電源コンセントの場合)に接続してください。

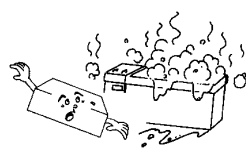
取り扱い上のご注意

- 変形、変色、結露、破損などの事故を未然に防止するため、次のような場所でのご使用または保管は避けてください。
 - 周囲の温度が極端に高い場所、または極端に低い場所。
 - 寒い部屋から暖かい部屋への移動。
 - 暖房器具の近く。
 - 浴室などの湿気の多い場所。
 - 窓際などの直射日光の当たる場所。
 - 椅子の上などの不安定な場所。また、本体の上面、底面および両側面には冷却用の空気取り入れ口が、また、背面には冷却用の空気吹き出し口がそれぞれ設けてありますので、これらの部分を塞がないよう、特にご注意ください。
- 電源コードは、傷つけないでください。重たい物を載せたり、机の角などで傷を付けたりすると、ショートなどによる故障や火災の原因になります。
- 電源コードを抜くときには、コードは引っ張らず、必ずコネクタの部分を持ってください。
- ケースが汚れたら、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジンはケースを傷めますので、絶対に使用しないでください。
- 交流100Vで運用するときには、電源コードは必ず独立した電源コンセントに接続してください。無線機や周辺機器などが接続してある電源コンセントに併用して接続すると、コンセントに流れる電流が電源コンセント自体の定格値を越えてしまい、発熱による火災の原因になります。

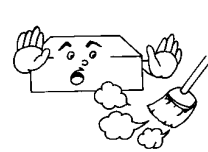
下記に示す場所を避けて設置してください



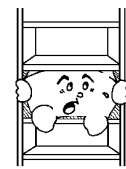
直射日光や暖房装置の熱・熱風が直接当たる場所



湿気の多い場所

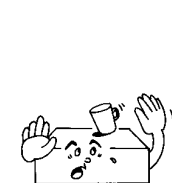


ホコリの多い場所



風通しの悪い場所

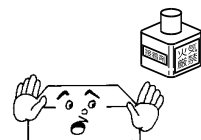
下記に示す事柄に十分ご注意ください



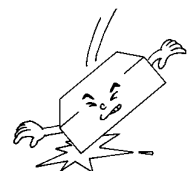
水の入った容器を置かない



振動を与えない



引火性のある物を近くに置かない



衝撃を与えない

接続方法

まず初めに、下図を参考にVP-1000の**OUTPUT**端子とVL-1000の**DC48V IN**端子を付属の電源ケーブルで接続し、VP-1000の**CONTROL**端子とVL-1000の**CONTROL**端子を付属のコントロールケーブルで接続します。

次に、VP-1000の電源プラグを、交流100Vまたは交流200Vの電源コンセントに直接接続します。

なお、VP-1000は、内部配線の変更や切り換えスイッチの操作などは行わずに、電源プラグを交換するだけで、交流100V、交流200Vどちらの電源にも直接接続することができます。

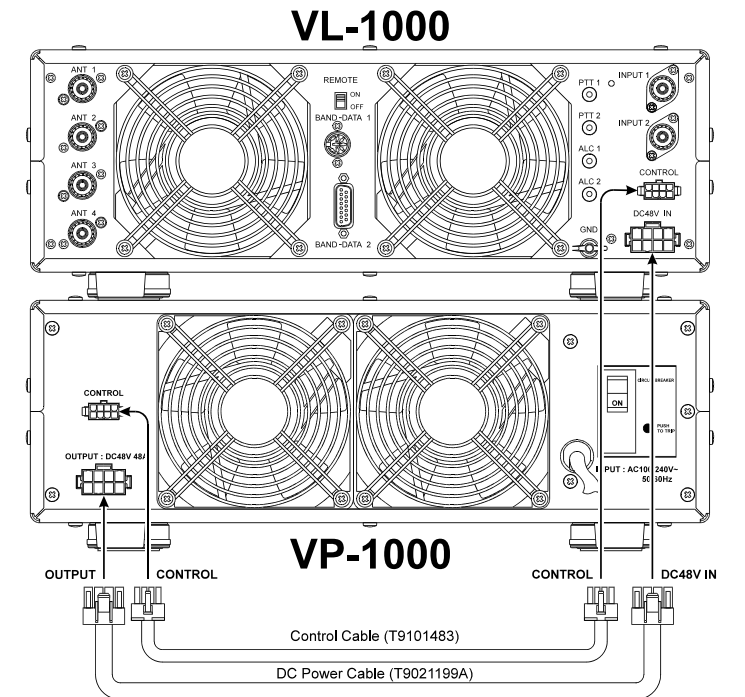
ただし、HF帯において**1000W**運用を行うためには、必ず**200V**電源に接続してください。

100V電源で1000W運用を行おうとすると、VP-1000背面のサーキット・ブレーカーが作動して、電源が切れてしまいます。

そのため、VP-1000を100V電源に接続したときには、VL-1000の最大出力が500Wになるよう、VL-1000の**LOW**スイッチを操作してください。

また、VP-1000の電源プラグは、必ず電源コンセントに直接接続してください。

延長ケーブルなどを使用すると、電圧降下などによりVP-1000/VL-1000の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、電源ケーブルの発熱によるショートや火災などの事故原因になります。



使用方法

VP-1000の電源スイッチとVL-1000の電源スイッチは独立して動作しますので、電源を**“OFF”**にするときには、必ず両方の電源スイッチとも**“OFF”**にしてください。

なお、下記に示す当社のBAND DATA端子付きトランシーバーと組み合わせた場合には、VP-1000/VL-1000の電源スイッチを両方とも**“ON”**のままにしておけば、48Vの電源ライン(VL-1000のパワーアンプ用電源ライン)のみをトランシーバーの電源スイッチで**“ON/OFF”**できるようになります。

ただし、長時間使用しないときには安全のため、VP-1000/VL-1000の電源スイッチも必ず**“OFF”**にしてください。

電源のリモート・コントロールが可能な当社のBAND DATA端子付きトランシーバー(詳細はカタログ等をご覧ください)

FT-897 Series, FT-857 Series, FTdx9000 Series, FT-2000 Series, FT-950 Series, FT-450 Series, FTdx5000 Series

サーキット・ブレーカーについて

本機はヒューズの代わりにサーキット・ブレーカーを使用しています。

万一、サーキット・ブレーカーが動作して電源が**“OFF”**になった場合には、下記に示したようなVL-1000の異常動作が考えられますので、サーキット・ブレーカーが動作した原因を調べて対策を施し、安全を十分に確認した上で背面のスイッチを入れ直してください。

- 100V電源で1000W送信を行った。
- ALC電圧の異常。
- アンテナシステムの異常。